

工学部

教育研究上の目的

本学部は、本学が規範とする教育理念の下にあって、人間社会と自然界によりよい環境をもたらすように工学的所産を開発・活用し得る、深い専門知識と幅広い教養をも併せ持つ技術者を育成するとともに、主体性・実践力をもって持続可能な産業社会の構築に貢献できる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ、工学部では、主体性・実践力をもって人類の福利に貢献し、グローバルな視点で持続可能な産業社会を構築できる技術者の育成を最終的な教育目標とします。

現在、限りある資源を有効に活用して、グローバルな視点で、地球環境の保全と経済の発展とを両立する持続可能な産業社会の構築が求められています。我が国も、グローバル化による国際競争、経済の低迷、少子高齢化、環境問題、資源問題、エネルギー問題等の様々な社会課題に直面しています。それら社会課題の解決を目指し、モノづくりを中心とした経済活動から、製造業におけるモノのサービス化やデジタル技術の活用など、ポスト工業化時代の新しい社会づくりが期待されています。豊かで持続可能な社会の構築のためには、これまで以上に工学技術者の役割が大きくなることが予想されます。工学技術者には、幅広い教養と確かな工学の基礎的知識、新しい時代に必要とされる専門的かつ体系的な知識を、論理的な思考で自在に活用する能力が必要とされます。さらに、その実践においては社会的責任感と倫理観を常に自覚することが求められます。また、日本国内だけでなく海外においても、技術者が複合的な領域で協働を行うためには、語学力を高め、多様な文化と価値観に配慮したコミュニケーション能力を身につけることも必要とされます。生涯にわたり、社会の変化や常に新しくなる技術に柔軟に対応するためには、技術者としてのキャリアをデザインし、自ら継続的に学習し続ける能力も身につけていなくてはなりません。

本学部では、体系化されたカリキュラムを通して、広く社会の発展に貢献できる工学技術者に必要とされる知識と能力を身につけさせることを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学部のカリキュラムにおいて、所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる能力や資質を身につけていると判断し、学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 多様な価値観に配慮した広い視野を持ち、技術者としてグローバルな視点で社会課題の解決に取り組む実践力を身につけている。
- (2) 社会環境の変化・技術発展の動向に絶えず関心を持って鋭敏な問題意識を醸成する能力を身につけている。
- (3) 自然、社会や人間の関わりを理解し、技術者としての倫理観と論理的な思考力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 幅広い教養と外国語能力を身につけ、自己表現能力を身につけている。
- (2) 日本の技術のオリジナル性を理解し、他国の技術の特性を考察する能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 解決が求められる諸問題に対処するために、技術者として工学の基礎的知識と専門知識を身につけている。
- (2) 技術者としての高い倫理観を持ち、社会と工学の進歩に貢献する思考と能力を身につけている。
- (3) 特定の工学領域や先端的な領域に造詣が深い。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学部では、広く工学の諸問題に積極的に挑み、解決しうる姿勢をもつ人材を育成するため、以下に示した方針で教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 全学共通の教養教育及び外国語教育と工学部の導入教育等を有機的に関連させることにより、幅広い教養と専門性を培うとともに、必要かつ十分な基礎学力を身につけることができるようにカリキュラムを編成しています。
- (2) 実験、演習、卒業研究といった体験型学修を毎年度に配置し、講義などで修得した専門的基礎知識の洞察、課題解決力を体系的に身につけることができるように4年間のカリキュラムを編成し、実施しています。
- (3) 在学中に学内留学制度を活用した留学・語学研修を可能とするカリキュラムを編成しています。

2. 教育の方法と評価

- (1) 教育課程の実施にあたっては、初年次ゼミナール(FYS)から演習や実験、輪講といった少人数教育・双方向型教育を徹底し、学生が自ら調べ、発表し、議論することを通して、問題発見能力・課題解決能力・説得力やコミュニケーション能力を培っています。
- (2) 単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学教育によって養う能力

- (1) 本学部は、社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養、並びに工学の基礎的知識と専門知識を学修し、技術者として持続可能な産業社会の構築に必要な倫理観、論理的な思考力、自己表現能力、コミュニケーション能力等を身につけ、社会並びに工学の進歩に寄与できる人材を育成します。

2. 本学部の求める入学者

- (1) 工学部での学修に必要な基礎学力を十分に備えている人
- (2) 向学心が強く、自主的・創造的に学ぶ姿勢を有している人
- (3) 特定の工学領域や先端的な領域に強い関心を持っている人
- (4) 課外活動やボランティア等を通じ社会への貢献を積極的に行っている人
- (5) 自らの将来像や進路について深く考え、勉学への明確な目的意識を持っている人

3. 高校までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 一般選抜である一般入試、大学入学共通テスト利用入試では、工学部での学修に必要な基礎学力を、高等学校での学習の達成度をもとに判断します。
- (2) 学校推薦型選抜として指定校制推薦入試、及び、総合型選抜としてAO入試と公募制自己推薦入試があります。指定校制推薦入試では、勉学意欲に富み、指定校の学校長から推薦された人に対し、提出された書類と面接により選考を行います。AO入試では、基礎的な学力を有し、広く科学・工学に興味と熱意を持った意欲のある人に対し、課題レポート、基礎的な学力を確認する総合試験、面接等により選考を行います。また、公募制自己推薦入試では、受験生個々の多面的な能力や資質、明確な問題意識やプレゼンテーション能力を有する人に対し、筆記試験や面接等により選考を行います。